

興津海岸コース

日蓮宗の開祖である日蓮が興津領主佐久間重貞の招きにより、説法した場所であり、佐久間重貞の開基と伝えられる妙覚寺や石巻産の粘板石で作られた繫船柱碑、民話・伝説の地である「おせんころがし」などがあるコースです。

経路図 その1



【経路説明】

※上総興津駅は昭和2年（1927年）国鉄が勝浦から延伸され、開業した当時の駅舎だと言われている。避暑地興津・守谷海岸の玄関口として賑わった。

駅を通りに向かい進み、国道128号線と交わる交差点を右折。途中釈迦本寺を右に見て進むと②伊勢屋商店がある。そこの信号を右折、ほどなく興津駅から続く外房線の③家の田踏切がある。踏切を渡り、円柱ポストのあるところを右折する。更に300m位進んだら細い道を左折。この奥に④禅奥寺がある。

※市指定有形文化財「木造地藏菩薩立像」がある。

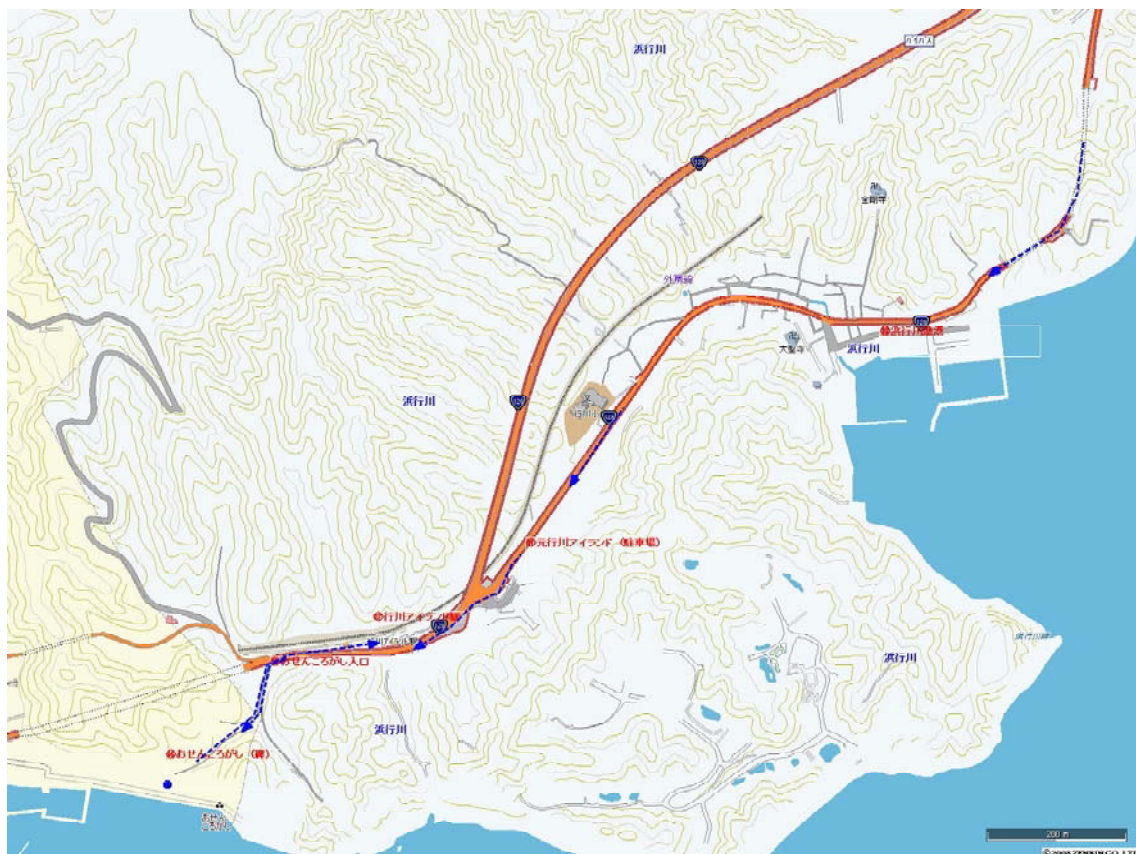
引き返して、円柱ポストのあるところまで来たら、今度は右折し、200mほどすすみ、⑤植野坂下バス停で県道にて、左折する。⑥宮前踏切の手前に「妙覚寺」の看板を見、そこを左折する。鹿島神社があり、すぐとなりに⑦妙覚寺がある。

※妙覚寺には市指定有形文化財が3つある。日蓮聖人が最初の道場を開いたとされる由緒ある寺院。境内には宝物館もある。

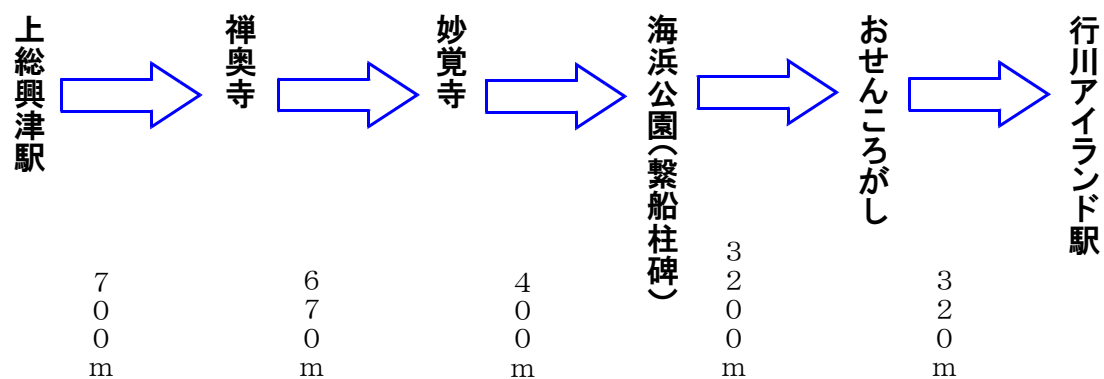
山門（市指定有形文化財）「仁王門」の先の踏切を渡ると国道に出る。国道を右折し、歩道橋をくぐり50m進み、⑨国道128号と地図にあるところを左折する。100m先の橋を渡ると⑧興津港海浜公園である。

※ここには江戸時代の廻船が使用した市指定有形文化財「繫船柱碑」がある。

経路図 その2



コースの経路(5.3km)



【経路説明】

引き返し、⑨の国道を左折する。ゆるやかな上りの道路がつづき、いくつかのトンネルの抜けると⑩浜行川漁港に出る。また、山口百恵主演のドラマのロケ地「八坂神社」がある。さらに進むと、またゆるやかな上り坂になり、⑪元行川アイランドの駐車場がある。駐車場沿いを行き、信号・歩道橋を過ぎ、右に⑫行川アイランド駅を見ながら進むとトンネルがあり、その前を左折すると⑬おせんころがし入口の案内標示がある。標示に従って細い道を進むと⑭おせんころがしに出る。引き返して、⑫行川アイランド駅でゴールである。

※興津海浜公園に駐車し、コースをまわることも考えられます。

コースの見所

① 禅奥寺

臨済宗。創設は養老四年（720年）。本尊は釈迦牟尼佛。興津地頭岡本大学介の菩提寺。清海村誌

※岡本大学：奥津城は正嘉二年（1258年）佐久間兵庫介重吉、同兵庫頭重貞の築城という。天文三年（1534年）真里谷武田朝信に占拠されたが、のち守兵を置いて大多喜に移った。天文十三年八月、安房里見の武将正木時忠がこれを攻略、配下の岡本大学をして守備せしめた。夷隅風土記

禅奥寺木造地藏菩薩立像 一躯 市指定有形文化財

※写真は木造地藏菩薩立像

像高80センチ、カヤ材の一木造り彫眼で瞳に墨色を点じている。内剝りなく造像銘などは検出されない。両手首、両足先を欠き、台座も失われている。臍部から足柄を刻出する。全体に胡粉の下地を残しているのが本来は着色像であったらしい。唇には朱彩の跡を残している。手法的には勝浦市指定文化財の東光寺木造地藏菩薩坐像（建武4年：1337年）に近似するので本像の造像年代もおそらく南北朝期と想定して差支えない。



特に本像の勝れた造型性については高く評価されている。

② 妙覚寺

文永十一年（1274年）興津城主佐久間重貞の嫡子長壽麿（日蓮聖人の直弟子で日保上人）の開基と伝えられる。江戸時代、日蓮宗本山として末寺を多く有し御朱印二十五石だった。

※佐久間氏：小湊の在地土豪で長期にわたって興津地域の指導的な役割をになった一族であったと捉えられる。勝浦通史

妙覚寺の由来では、日蓮聖人が最初に道場を開き、「日蓮宗最初の寺院」であると。

広い境内には本堂（1817年建立）や仁王門（山門）、鐘楼堂、釈迦堂などがある。

本堂や釈迦堂の側には大きなサルスベリが数本あり、季節により鮮やかな花を見ることができる。

③ 妙覚寺山門 市指定有形文化財

この山門は江戸時代後期の地方作の代表的建物の一つである。

三間二面一戸の楼門で天保七年（1836年）建造開始、天保十年完成した。構造柱は径30cmで心柱は当初の礎石に立ち、側柱十本は改造時の八画石に立っている。

入母屋造り、浅瓦葺きで、懸魚に孔雀の彫刻があるところなど、地方作らしい。

斗拱間の臺股（かえるまた）にも牡丹に獅子、松に鶴などの図柄が用いられている。構造は大きく地方色と時代色が鮮やかに出ている。



④ 木造日蓮聖人坐像 市指定有形文化財

所有者 妙覚寺

像高57.5センチ、木造寄木造り、玉眼嵌入(かんにゅう)、彩色仕上げで、頭部を前後二対矧とし、首を襟際で体部に挿し、体幹部は前後三材矧とし、両肩以下の左右の側面材を各前後二材寄せとし、体幹部との間に横一材を挟み、両脚部の横材を寄せ裳先を矧ぎ両袖の先などを足す。

像容は円頂、僧衣、袈裟を付け左腕を屈臂して胸脇で経巻を捧げている。左手は膝上で笏を握る通形の姿をとっている。

像底には、両脚部の浅く刳上げた部分に墨書銘がある。

敬白 興津弘栄山妙覚寺

生年四十二

御影御尊形仏尺二尺四寸

日義(花押)

この像は文明19年(1487)に造像されたものである。



⑤ 繫船柱碑(けいせんちゅうひ) 市指定有形文化財

江戸時代、興津港は東北諸藩の廻米交易船の停泊地として、房総沿岸有数の避難港として多くの船が入港した要港であった。付近には、今でも「千軒」「三味線堀」などの地名があり、繁栄ぶりが偲ばれる。特に穀倉を誇る仙台藩はその往来が最も激しく、興津天童山下に陣屋を置き、寄港船の取り締まりや連絡等にあたらせたと言われる。

この繫船柱も仙台藩によって運ばれた船をつなぎとめるためのもので、石巻産の粘板岩(仙台石)でつくられている。以前は、弁天崎の磯際に十数本も並んでいたというが、現在は「繫船柱碑」として、興津港海浜公園と妙覚寺境内にそれぞれ一本づつが保存されている。これに繫留する船舶は一艘につき金一朱と御供米2升、500石以下は200文を妙覚寺に納めたと言われている。

興津港海浜公園 石巻産粘板岩 高さ2.6m 直径45cm

妙覚寺境内 石巻産粘板岩 高さ2m 直径40cm

※写真は、興津港海浜公園の繫船柱碑



⑥ おせんころがし

行川アイランド駅を小湊方面に向かうトンネルの脇の小道を左折し、徒歩2分。入口に白の案内標示がある。

薄の生い茂っている細い道を進むと「おせん」の碑が見えてくる。その先には高さ数十メートル、幅4キロにおよぶ断崖絶壁がつづく。

※柵があり、柵の外に出ることは危険。くれぐれもご注意を。

ここを舞台とした孝女おせんの悲話がある。下記の「おせんころがし」をお読みください。

おせんころがし 「房総の民話」より

むかし、上総の国、奥津(今の興津)大沢の海辺の村におせんという、美しく気だてのよい娘がすんでおりました。おせんが十二の時、やさしかった母親がなくなり、病身の年老いた父親と二人ひっそりと暮らしておりました。

ある日、親孝行のおせんは村人から、大沢の浜の高い崖に根をはる磯菊が父親の病身に大へんよいと聞きました。それからおせんは毎日、それをとってきては煎じて父親に飲ませることにしました。ちょっと足をすべらせればまっさかさまに青い海にすい込まれてしまう危な



い場所で、大人でもなかなか近よれないところでした。

娘の孝行の心が通じたのか、父親の病身は、だんだん良くなりました。そして、おせんは大きくなるにつれて益々美しく近在の評判になりました。

ある時、心のよくない土地の代官にその美しさが伝わり、ぜひ自分のもとにおきたくなりました。多くのお金を持って使の者がおせんの家に来ましたが父親は、代官屋敷に行けば、娘が不幸になることがわかっているので固くことわりました。

心のよくない代官は、手をかえ品をかえ頼んでも聞き入れてくれないのでカンカンにおこって、ついに父親をころしてしまおうと考えました。

ある日代官は家来に命じておせんの居ない間に父親を連れ出し、縄でしばりさるぐつわをはめてむしろ巻きにしてみました。夜暗くなったら海の中にくろがし落とすつもりだったのです。おせんは磯の仕事から帰る途中、それを見て息のとまるほどおどろきました。今、そっと助けてもまた必ずやって来るし、大切な父親を死なせることは出来ないし、おせんは、どうしたものか迷い、泣いてしまいました。そして、小さい胸にかたい決心をいたしました。父親を助けて家に帰り、父親が安心してねむると、おせんはそっと家を出ました。

空にはきれいな星がキラキラと光っています。その星の一つがなつかしいお母さんのように見えました。波の音がお母さんの声のようにきこえました。おせんの頬にまたあつい涙がこぼれました。暗い崖の上でおせんは、屋間父親がまかれていたように自分でむしろ巻きになって静かにしていました。それとは知らぬ代官の家来は夜の海に、おせんをころころとろがし落としてしまいました。

あとでこのことを知った父親は、声を上げてただ泣きくずれるばかりでした。心のやさしい村人達もなげき悲しんで、なきなきおせんのおとむらいをしました。崖の上の草むらに「孝女おせんの碑」をつくり美しい野の花を供えて上げました。

おせんの話はいつまでも後の世に伝えられ、いつかその地を「おせんころがし」と呼ぶようになったといえます。



本コース近くの名所

① 守谷洞穴

勝浦市守谷には、住居址洞窟が多い。

荒隈洞穴：四回の隆起と二回の沈降があり、土師器・獣骨・魚骨・貝殻・木炭・人骨等が発見。表土近くには近世の陶器や鉄釘等が混在していた。

弁天崎洞穴：弥生式土器・土師器・石器類等のほか、貝殻・魚骨・人骨等が発見された。

蝙蝠穴(畑尻)洞穴：須恵器等土器片のほか、人骨・貝殻等も発見された。人骨は屈葬のような状を呈し、骨盤の上に大きな円石が乗せられていた。

本寿寺洞穴：縄文式後期の土器、円石、朱のはいった鮑貝等のほか、人骨・獣・魚・鳥骨・蝸牛殻等が発見された。 **夷隅風土記**



② 守谷海岸 写真は渡島（わたしま）

『日本の渚・百選』に選ばれた守谷海水浴場のある守谷海岸の沖には、赤い鳥居が目を引き『渡島』がある。守谷海岸では、年に20回ほど、干潮時に砂浜と渡島がつながる自然現象を見ることができる。

※「日本の渚・百選」：平成8年から「海の日」が国民の祝日となったことから、その機会に「海」の持つ重要な役割を改めて広く国民に認識してもらうとともに、海の恵みに感謝し、海を大切にすることを目的として、全国から、景観資源としての特色、海岸保全及び環境保全等の対策、生活者との深い関わり合い等の観点から、優れた「渚」を選定したもので、この守谷海岸は鶴原海岸とともに選定された。

第十二回全国豊かな海づくり大会

1992年11月。天皇、皇后両陛下をお迎えし、海づくり大会がここ守谷海岸で開催。参加者は約2万人であった。

妙覚寺のサルスベリ

夏には見事な花を見ることができる。

